

2025

8/1 金

高槻城公園芸術文化劇場 南館トリシマホール

〒569-0077 大阪府高槻市野見町 6-8

開場 16:30 開演 17:30 (20:30 頃終演予定)

公演に関するお問い合わせ

(一社) MASUDA カグラボ (070-8305-5128)

出演：益田市石見神楽神和会

主催：益田市

共催：高槻市都市交流協会 / 益田市都市交流協議会 / 高槻市文化スポーツ振興事業団

後援：高槻市 企画：(一社) MASUDA カグラボ

上演演目 岩戸／十羅／大江山／八岐大蛇

魂が躍動する神々の舞

IWAMI KAGURA

THE DANCE OF THE DEITIES

【チケット一般発売】2025年5月14日(水)

劇場友の会先行発売：5月9日(金)

全席指定

【大 人】前売 4,000 円・当日 5,000 円《一般》

【小 人】前売 1,500 円・当日 2,000 円《中学生以下》

未就学児無料 ※膝上鑑賞に限る

チケットの
お求め

高槻城公園芸術文化劇場 [WEB・窓口・電話にて受付]

10:00～17:00 ※月曜休館(祝日の場合は翌日)

※電話受付は14時から

会場・チケットに関するお問い合わせ

072-671-9999



大阪・関西万博出演記念
高槻市・益田市姉妹都市交流特別公演

石見神楽

島根県西部の石見地域で演じられる神職神楽で、その由来は古く平安末期から室町時代に石見一円で祭事に併せ舞っていたものとされている。江戸時代には出雲佐陀神楽が、歌舞伎や能の所作と融合させた神話劇の神能を演じるようになり、爆発的に石見に波及され神楽化されていった。その後、明治の法改正により、その土地の人々が神楽を演舞するようになると、活発な石見人の気性そのままに勇壮な八調子とよばれるテンポになるなど、改革も活発化した。神事でありながらも演芸的要素が濃く、ストーリーも明解、舞もお囃子も激しく、胸のすくような爽快さと勇壮さがあるのが特長である。

令和二年「神々や鬼たちが躍動する神話の世界」石見地域で伝承される神楽」として日本遺産に認定。

明治以降、島根県益田市内で崇敬の篤い氏子達が神職から神楽の伝統を受け継ぎ、会をなしている。昭和四十五年に大阪万博に招聘され、その知名度が一気に全国へと波及することとなり、現在も世界・全国各地への公演を積極的に行う。

石見神楽の各会、団体の発展や継承、後継者育成等を目的として集い、平成四年に「益田市石見神楽神和会」として市内九団体に発足。

その後、市町村合併を期に十四団体に。歳末助け合い石見神楽共演大会を毎年開催、ほか数多くの市外県外公演に加え、近年はサウジアラビア・アメリカ南部・中米五ヶ国での海外公演を行う。現在は、十一団体で活動しており、日本の伝統芸能として石見神楽の普及に努めている。



岩戸 IWATO

天照大御神は須佐之男命の悪しき仕業に心苦しめ、天の岩戸に閉じこもる。世の中の光は失われ、八百万の神々は集い四り事を巡らし、岩戸の御前にて囃子を鳴らし宇津女命が神楽を舞い騒ぎ立てます。不審に思った天照大御神は岩戸を細目に見開き様子を伺ったところ、太力男命により岩戸を切り開き、再び世の中に光が戻った。神楽初めの代表的演目です。

大江山 OEYAMA

時の將軍、源頼光は都を悩ます大悪鬼・酒呑童子征伐を命じられます。頼光は家臣である渡辺綱、坂田金時ら四天王を従え三社祈願に向かいました。そこで神より人面鬼毒の酒を授かった一行は山伏に姿を変えて鬼の根城である大江山へ…。言葉巧みに童子の疑いをかわしつつ、頼光らは鬼たちを毒酒で酔いつぶれさせ、手下もろとも成敗するという武勇伝です。

十羅 JYURA

日ノ本の国を魔国にしようと彦羽根なる鬼が船を操り攻めてきます。それを聞きつけた須佐之男命の末娘、十羅利女が船上にて迎え撃ち、異国に帰よう説得します。彦羽根はこれを拒否した為、激闘の末に異国へと追い返されます。女神と鬼女の戦い、その激闘には目が離せません。

八岐大蛇 YAMATANO-OROCHI

高天原を追放された須佐之男命は出雲の国斐伊川の悲しき物語を聞き、大蛇に悩まされる人々を救うため自ら大蛇に立ち向かう。須佐之男命の勇壮な立ち回り、大蛇の迫力のある激しい舞が特徴的な石見神楽人気 No.1 の演目です。

